

機関番号：12603
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520702
 研究課題名（和文）東アフリカ牧畜民における集団間の友好と敵対のバランスシート：諸集団
 共存の重層性
 研究課題名（英文）Thinking the balance-sheet of friendship / hostility between East
 African pastoral ethnic groups: multi-layeredness of coexistential
 situations
 研究代表者 河合香吏 (KAWAI KAORI)
 東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
 研究者番号：50293585

研究成果の概要（和文）：

本研究は、東アフリカ牧畜民における友好ないし敵対する集団間の関係を個人間の関係というミクロなレベルから検討したものである。この地域の集団間関係は、互いに家畜を略奪しあう敵対的關係であるのかそうでないのかの二相に分かれるものであると主張されてきた。だが、これら二相の關係は固定的なものではなく、状況によって行き来するものであり、そこには集団を越えた個人間の關係が深く関わっていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

This study aimed to investigate the balance – sheet of friendship / hostility between East African pastoral ethnic groups, paying due attention to micro-level personal relationships. In this area, relationships of inter - ethnic groups have been considered that they are divided into two types, as hostility / friendship which they raid their domestic animals mutually each other or not. This study clarified that these two types of relationship are not stable, rather than flexible according to contexts and situations. The interactive personal friendly relationship between individuals belonging to different ethnic groups plays definitely important role on the ethnic group level.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,200,000	4,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化人類学、アフリカ

1. 研究開始当初の背景

これまでの東アフリカ牧畜民に関する人類学／民族誌研究の多くでは、レイディング（家畜の略奪）という敵対的な相互交渉をとりあげて、牧畜民の攻撃性や好戦的な行為性が主張されてきた。またそれらがしばしば

人類の暴力性や戦争の起源を問うものとして描かれてきた。これらは民族集団を一枚岩的にとらえ、諸個人間の友好関係もまた集団の形成と維持に深く関わるものであることを看過してきたといえる。そこで本研究では、敵対と非敵対の双方を同等の資格でとらえ、

かつ、それを可能にするものとして、集団を越えた個人的な関係に着目した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アフリカ牧畜民の集団間関係を個人間関係というミクロなレベルから検討し、敵対と友好・許容の二相を行き来する集団間関係の重層性を解明するとともに、そうした現象が集団の形成や編成、維持にどのようにかかわっているのかを考究するというものであった。

3. 研究の方法

基本的な研究方法は、人類学の一般的な方法である現地の牧畜集団の集落に住み込み、人びとの行為・行動について参与観察するとともに、インタビュー等によって言説データをあわせて収集し、これを民族誌として描くこと、またそうした個別の民族誌をまとめあげて理論化することを試みた。具体的には、レイディングという敵対的な行為に関する資料を収集するとともに、家畜の贈与や交換といった個人間の友好的なやりとりや、放牧地や水場へのアクセスの許容ないし黙認といった相互交渉を追う一方で、彼らの生業基盤である家畜群を対象として、家畜の増減の実態を通時的に追った。

4. 研究成果

上記、現地調査を通じて、友人関係や姻族関係といった社会関係が民族の枠組みを越えて、人びとの生業基盤である家畜の増減に与していることが明らかになり、そうした現象が集団の形成や編成、維持に深く関わっていると結論づけられた。こうした作業を通じて民族集団対民族集団といったマクロな視点では抜け落ちてしまいがちな個別的な行為、行動によって生成する集団間関係のありようを提示することにより、敵対と友好ないし許容の二相を行き来する集団間の実態的な関係の重層性が明らかにされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① KAWAI, Kaori

The Epistemology and Ontology of the Chamus in Kenya: Human Body as Nature.

African Study Monographs, 査読有、29 (3)、2009、119-131

[学会発表] (計1件)

河合香吏「人類学の誘惑—専門を横断して考える」、『人類学の誘惑—京都大学人文科学研

究所社会人類学部門の五〇年』シンポジウム、2010年4月17日、京大会館、(招待講演)

[図書] (計3件)

① 河合香吏他、京都大学学術出版会、河合香吏編著『集団—人類社会の進化』2009、329頁(出版に際して査読相当有)

② 河合香吏他、谷泰・田中雅一編『京都大学人文科学研究所社会人類学部門の五〇年』、2010、92頁(出版に際して査読相当有)

③ 河合香吏他、床呂郁哉・河合香吏共編著『ものの人類学』2009、381頁(出版に際して査読相当有)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<http://human-evo.aacore.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合香吏 (KAWAI Kaori)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：50293585

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：